

「アレルギーの臨床に寄せる」 — ### —
【矢追インパクト療法】
目に対する効果

東京渋谷 山脇診療所
山脇 昂

“矢追インパクト療法”は目に対してもすごい効果があります。視力について1例を申し上げます。40代前半の某国の女性外交官が受診しました。女性特有の肩こりとか疲労感を訴え、軽い全身浮腫状態でした。三角形の眼鏡を架けていましたが、目の事は全然訴えもなく、私も目の事は全く考えていませんでした。眼鏡を外させ、腹這にして頸部肩腰にやり終わって、立ち上がり眼鏡を架け始めたら、何やら騒ぐのです。眼鏡の度数が合わなくなり、見えにくくなったためでした。通訳を中に私が説明しました。視力が悪くなったのではなく、改善したから合わなくなったのだと。本人はOOOO！OK！OK！と言ってびっくりし納得されました。それくらい眼裂が開大し、視野が広がり、明るくなり即効的に視力が回復します。

もう1例眼筋麻痺を回復させた例を申し上げます。50代後半太ったタクシーの運転手さん—糖尿病で当院受診されていた患者さん。ある日運転中に左黒目が左外側へ行かなくなった。左目をつむって右片目だけで運転していたが、危なくてだめだから止めて来たと言う。黒目を移動させると、左黒目が真中よりほんの少し外側寄りまでしか行かない。外側直筋が麻痺したものと思う。“矢追インパクト療法”を上眼瞼と外眼角部にやったら瞬時に動くようになり麻痺はとれた。患者さん自身が驚き、〈こんな注射のせいではない。偶然治ったのだ〉と言い残し、それ以来来院ありません。他にも直ぐ治ると、〈なんだこんな簡単に治るのか〉とか〈この注射のせいではない〉と言われて、さげすまされることに遭遇します。

もう1例右眼瞼下垂のご老人が来院された。或る精神科医等数人と酒を飲んでいたそうです。その精神科医が〈お前目が下がってきたぞ。早く眼科へ行きな〉と言われ、かかり付けの眼科へ受診した。眼科では〈こんなの治りません。大きな病院へ行ってください〉と言われ大病院の眼科を受診した。そこで〈今すぐどうこうする事も出来ない。後でMRIでも撮って精査しましょう〉と目薬と抗生剤を投与されて帰ってきた。奥さんに〈そんなと

こ行かずに今すぐ山脇先生のとこ行きなさい〉と言われて当院を受診した。その奥さんは何十年と酷いアトピー性皮膚炎に悩まされていたが、“矢追インパクト療法”で快方へ向かっていた。当院は眼科でもないのに、奥さんは何か直観を感じたのだろうか。ご老人は〈以前より右目がひどく疲れていて、焦点が合わず何時も二重に見えた。お酒飲んだら尚疲れ目が下がってきた〉と言う。“矢追インパクト療法”で少し眼裂が開大するのは経験上知っていたので、やってみることにした。両前腕に3個ずつやったが、下垂した眼瞼に何か循環が良くなったような印象があり、少し開大した。それから2週間に1回の割で3か月やった。眼裂は左右全く遜色なくなり、二重だった焦点も全く一致し、目の疲労感も全く消失した。

もう1例老坊さんが来た。小股・すり足でやっとたどり着いたというふうである。当院は2階にあり階段を登らねばならず、近くのマンションに引越してきたが、階段が登れず、何回かトライしたがだめで、困りに困って数日かかってやっとたどり着いた。いざ診察室に入ろうとしたが、入らず立ち止まって、ずーとこちらを眺めている。言葉を発した〈貴方はこんな極楽浄土のような所で診療しているのか〉と。私の診察室には大きなガラス窓があり、見ると外は新緑で柔らかに日が射していて、スズメが鳴き、モンシロチョウが舞っていた。老僧はすり足で入ってきたが、何も聞かずベッドに腹這に寝かせ、首から腰部まで“矢追インパクト療法”をやった。〈起きて立ってください。足を挙げてください〉と言うと挙がった。〈歩いてみてください〉と言うとすり足でなくすたすたと歩けた。この老僧の眼つきが斜視だったので写真を撮っておいた。その後3年ぐらい毎日明治神宮・代々木公園の辺りを7.5km歩いたという。聞けば、この僧は比叡山の中を100日修行3回やった、阿闍梨だそうです。千日修行はしなかったと言います。この僧の眼が治っている。斜視でなくなっている。

それから患者さんの目を良く注意して見ることにした。或る日本舞踊の師匠で80過ぎの御婆さんが来た。斜視で悩み、どこへ行っても治らなかった。今度は上眼瞼に直に打ってみようと思って遣ったが、さすがに沁みてすぐ痛かったという。しかし斜視は治っていた。腰にも打った。元気になり、機敏になった。この療法は眼瞼下垂とか弛緩し力の弱った筋肉の立て直しに役立つ。重症筋無力症・筋萎縮性側索硬化症等難病にもチャレンジしてみたい。